

世界構造の中の方法と粒度についてのノート

- | | |
|-------------------|--------|
| 1. はじめに | 02 |
| 2. 準備1: オブジェクト、粒度 | 03 |
| 3. 準備2: 矛盾 | 04 |
| 4. 方法, 粒度特定 | 05- 08 |
| 5. 結論 | 09- 10 |

高原 利生 2013.09.04

1. はじめに

- 第一の例：1684年芭蕉、野ざらし紀行
- 第二の例：原発、学力低下、子育て、いじめ、研究

→ **何を** **どう** できるか、するか
(「何を」「どう」は同時に相互規定され決まる制約)

生き方：
態度 → (オブジェクトの**粒度**特定 ↔ **方法**)

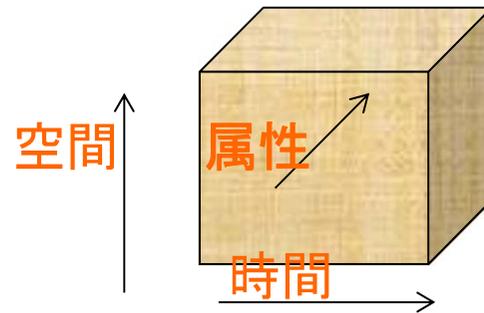
2. 準備: 基本概念の見直し

(根源的網羅思考による)オブジェクト: 知覚できるもの

オブジェクト: 存在と, 関係 = 作用 = 運動 = 変化

これに**二つ問題あり**

問題の一つ 粒度: 空間時間、属性の範囲 の管理がない



「何を」を具体的に規定するのが粒度

粒度を管理するのが**根源的網羅思考**

3. 準備：矛盾という近似モデル

もう一つ問題 オブジェクトは世界のいい近似単位でない

世界の近似単位を目指した**従来の矛盾**もだめ。マルクスは商品がある前提で資本論を始めてしまう。存在するオブジェクトの運動しか扱わない



(とりあえず対立項は「観念」を含む「存在」とする)

矛盾：全ての運動の構造：両立と差異の生成と解消 (両立矛盾：二項が相互規定され両立、**差異解消矛盾**：二項の片方がもう片方になる通常の変更) 何をどうのうち「**どう**」を規定する**矛盾**。それを単位とする**弁証法**。(矛盾の見直しも根源的網羅思考による)

粒度が定まっていれば**矛盾、弁証法**だけで問題は解決(と思っていた)

4. 方法,態度

31) 方法と粒度特定

粒度が必要だが確定困難

理由1: 虹は日本では7色、アメリカ、ベルギーでは？**粒度**
は網羅と同時に決まる**制約**あり、一意に決まらない

理由2: 客観的にも決めるのは困難

理由3: 曖昧な粒度の思考、議論と、古い粒度の固定観念
でも世の中に十分通用。このため論理もでたらめになる

→ **根源的網羅思考**が必要 : **制約こそカ** この**制約は両立矛盾**
→ **粒度を意識し、粒度と網羅は矛盾と意識すること**

あらゆるものを対象に、**粒度と、抜けのない論理的構造的網羅の制約**を極限まで考え続ける

4. 方法,態度

31) 方法と粒度特定 根源的網羅思考 (「何を」「どう」を規定する粒度と網羅の矛盾)

- 1) 根源的網羅思考の**対象**は全てのオブジェクト、特に
 - ・ 事前に: 基本概念、オブジェクトの型、可能な価値
 - ・ 「今」: 現実、目標、手段
- 2) 根源的網羅思考の**構造**、手段、方法
オブジェクトの**粒度、構造、属性、値**を網羅的見直し:
これで矛盾の解も求められる
 - ・ 粒度の階層を大きくまたは小さくして: 上位のオブジェクトは何か? 減らせるまたは増やす要素はないか? (例: 矛盾の要素の種類、進化論の発見)
 - ・ 同じ階層の粒度で
 - ・ 今と関係するオブジェクトの
 - ・ 追加の新しいオブジェクトの
 - ・ それら間の関係の

4. 方法,態度

31) 方法と粒度特定 根源的網羅思考

3) 根源的網羅思考の機能、目的

- ・新しい認識(子供の認識、発見など)
- ・「問題」(目的と現実)の適切な粒度確定
→粒度は抜けのない論理的網羅の中から選ばれる
- ・新しい手段の生成
- ・可能になる新しい機能、価値の創造:原理の発見や条件両立から可能になる価値、目的
(例:宇宙ヨット、持続可能社会)

4) 根源的網羅思考の運動形態を網羅

- ・上記の根源的網羅思考自体の運動
- ・弁証法による変更と根源的網羅思考の相互作用(例:設計)

4. 方法,態度

32) 態度、4) 態度を規定するもの

32) 粒度特定、方法の前にある

一体的態度の極限が自分を高める謙虚さ、
対象的態度の極限が相手と対象を高める批判

生き方：
態度 → (粒度特定 ↔ 方法)

謙虚さと批判性を徹底して求める根源的網羅思考、
謙虚さと批判性を統一する矛盾、弁証法(コンピュータなら
可能?)

41) 態度を直接的に規定するもの

42) 態度を間接的に支援するもの

これも弁証法と根源的網羅思考

5. 結論1

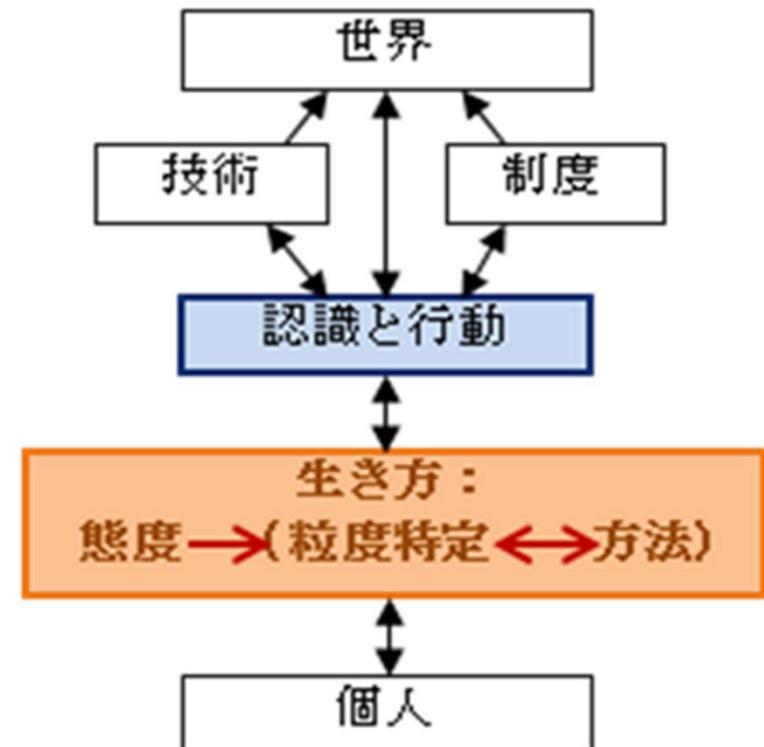
- 1 従来のオブジェクトには、二つ問題。一つ:オブジェクトを単位とした全ての運動が網羅されたモデルがない。→方法として新しい**矛盾、弁証法**を提案してきた。
もう一つ:粒度が管理されていないこと。→粒度管理のための**根源的網羅思考**を提案してきた
- 2 本稿で、**根源的網羅思考**が、方法としても有効な面を発揮することを示した。論理的網羅のため機械化可能
- 3 変更のための運動モデルである**矛盾と形式解**は**根源的網羅思考**により見直され、**矛盾の定式化、解も根源的網羅思考**で得られる。
根源的網羅思考は粒度と網羅の矛盾でもある

5. 結論2

「根源的網羅思考とこれによる矛盾」による態度から世界までの統一的世界観

「根源的網羅思考とこれによる矛盾」は価値と事実に対する方法、態度の革命

「根源的網羅思考とこれによる矛盾」による「世界観、哲学と方法が統一された新しい生き方



謝辞、御参考

御清聴ありがとうございました

中川徹先生、Ellen Dombさん、Shahid Saleem Ahmed Arshad氏
に感謝します

矛盾については、「参考文献」で(掲載予定)としていた
「技術と制度における運動と矛盾についてのノート」
がTRIZホームページ<http://www.osaka-gu.ac.jp/php/nakagawa/TRIZ/>
に掲載されています
<http://www.osaka-gu.ac.jp/php/nakagawa/TRIZ/jpapers/2013Papers/Takahara-TRIZHP-1307/Takahara-TRIZHP-Paper-130727.html>

矛盾はアルトシュラー、根源的網羅思考は「精神指導の規則」による